

人文論叢

三重大学人文学部文化学科研究紀要

第 28 号

目 次

論説

アフリカ文学と Oral Literature (8)

—『ビードル』論— 赤岩 隆 (1 ~ 14)

“文化的华文文学” 研究 試論 荒井 茂夫 (15 ~ 19)

コミックの物語論構築に向けて (その2)

—『ポール・オースターのガラスの街』に関する考察— 大河内朋子 (21 ~ 31)

グリム童話に登場する魔女の像について 太田 伸広 (33 ~ 59)

キリシタン資料のゲズとその方言性 川口 敦子 (61 ~ 71)

マローウの *Doctor Faustus* と *The English Faust Book* 坂本つや子 (73 ~ 87)

〈私〉の消去の後に 7 — 性起としての世界と人間 — 村上 直樹 (89 ~ 115)

椎名麟三における〈イエスの復活〉とユーモア論

— カール・バルト『倫理学講義』からの影響 — 尾西 康充 (一 ~ 三)

三輪山の神の遠出 —「三輪の糸」が語ろうとしたもの— 武笠 俊一 (二 ~ 五)

北宋期における李白への視線について 湯浅 陽子 (六 ~ 四)

研究ノート

ドイツ語程度副詞の共起語の頻度に関する調査 (1) 井口 靖 (117 ~ 129)

「日本と／かブラジル」という限界を越えて

— ある日本人の移動に関する生活史 — 立川 陽仁 (131 ~ 144)

文化の類型とコミュニケーションギャップ 藤本 久司 (145 ~ 155)

三重大学人文学部

2 0 1 1